

広谷川ム沢～本名御神楽岳～御神楽岳～室谷登山口

増田 寿代

■山行年月日:2021年7月22～23日

■メンバー:斎藤憲一、佐藤健、
増田寿代

7月22日(木)晴れ

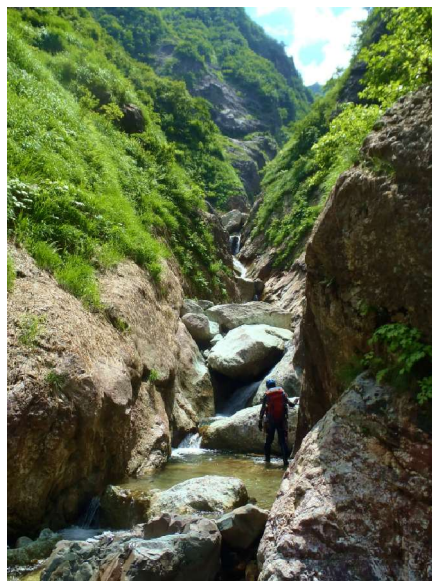
7時御神楽荘集合とのことで、3時過ぎに家を出て6時40分に到着。お二人は既に到着されていて、車一台は室谷の登山口に回すとのこと。私の地形図には室谷からの登山道は無く、実は下山路が理解できていなかったが、やっと少し理解する。室谷の方には私のスィフトをデポし、蟬平までは佐藤さんの車で入る。

蟬平から湯沢の出合まで1時間ほど登山道を歩く。途中、沢を横断するところは冬はかなり怖い所らしい。斎藤さんが色々説明をしてくれるけれど、私は長時間運転&暑さですでにバテバテで頭の中は『水』の一文字(-_-;)。湯沢出合で沢水につかり、体中を冷やすと少し落ち着いてきた。

ここから沢に入るが、すぐに深い淵があったので道に戻って巻く。沢に入ると気分も良くなり、楽しく歩ける。緑がかった白い岩のナメが綺麗だ。御神楽沢出合までは一箇所ロープを出したのみで問題なく進む。11時少し前に御神楽沢出合に到着。広大な奥壁が望める。斎藤さんのザックからは小芋を揚げで味噌で味

付けしたものやらきゅうりのからし漬?など重くて美味しいものが沢山出てくる。ご馳走様です!

さて、ここまではアプローチ。既にム沢の最初の大滝が見えている。近寄れば登れそうもなく、右岸を大きく巻かなければならないかと思う。斎藤さんはかなり早くトラバースに入ったけれど、それが正解。小さく無駄なく巻くことができた。しかし私はヤブトラバースの最中にめまいを感じ、これはヤバいと思う。ちょうどお昼ということで、滝上で昼食の大休止としていただく。冷やし中華を少し分けていただいたりして塩分補給し、のんびり横になっていたら気分も良くなり、遡行開始。



深く切れ込んだ溪

ここからは滝の連続。大岩のチョックストーンが多い。佐藤さんは先月の沢トレで初めてお会いして(ご挨拶もせずにスママセン)いかにも登れそうな人だなあと思っていたが、その通り！どんな滝も佐藤さんがロープを伸ばして登って下さるし、お助け紐も何度出していただいたことか。頼もしい限りだ。

平面を持つ大岩の特徴的な 4m ほどの CS 滝はかなり難しい。ネットの記録ではショルダーとか書いてあったが、水流がある今は無理。右岸の壁をなんとか攻略できないかと皆で考える。(見た目と違って難しいという場面がこの後も沢山でしてきた。)ここは岩を見る人とヤブを見る人(私)の合わせ技？でここしか無い！というところを佐藤さんがチャレンジ。かなり厳しそうだったが上まで抜けてくれた。思わず拍手！続く私は四苦八苦。ゴボウ&ブルージックで醜態を晒しつつなんとかクリア。上の足場が悪くてザックを揚げるのも結構キツイ。佐藤さんのカムが良く効いていて、こんどダンナのを借りてこようかなと思ったりする。

2段 15m 程の滝は下はぬめった凹みに挟まりつつ通過。その上は流れを横断して斎藤さんがロープを伸ばす。こちらから見ていると簡単そうなのだが、ハーケンを二個も連打している。行ってみればかなりの角度の壁だった。私は絶対滑るなと思い、後続の佐藤さんにそう宣言する。同じロープにつながっているので佐藤さんは慌てて対処して下さる。(本当にスママセン。)上からも下からも確保されつつ水流に落ち、引っ張り上げていただく。



ハーケン連打

その先も大岩だらけの沢を登っていく。気が付けばかなり日が傾いていた。腕時計を落としてしまったので時間の感覚が無くなっていた。大岩の隙間の平地を斎藤さんが見つけて、ここで幕にしようとおっしゃった時にもう 17 時近いと知る。沢が大きく右にカーブするところの手前だが、時間的にも厳しいのでここで泊ることに決定。大岩の間の平地は、小石を片付ければ平らな砂地。素晴らしい幕場となる。(翌日、ココしか泊まるポイントは無かったと知るのでした。)

夜は快適な焚き火の傍らで辛〜いキーマカレーの夕食。佐藤さんは職業柄、静かで真面目でお酒なんか呑まなそうと勝手に思っていたが、明るくてお酒も大好きな方だった。楽しい夜は更けて行く。

7月23日(金)曇り後晴れ一時雨

快適な幕場でグッスリのはずだったが、ここにもヤブ蚊が少々居て、二週連続顔を刺されて熟睡できなかった。4時半に明るくなってきたので起床。

6時半に出発。朝っぱらから少々シャワーも交えつつ巨岩を越えて行けば、予想を遥かに超える巨大な雪渓が立ち上がる。斎藤さんはちょっと偵察してくる、と雪渓の下の方へ消えた。ここは沢が右にカーブする地点。雪渓をくぐってもその先が登れない滝だとのこと。上から越えようと見に行くが、降りる所が無い。沢通しは無理なので、右岸をしばし眺めてどう進むか悩む。一番下のルンゼを少し登って、その隣の枝沢までヤブトラバース。既になかなかきつい。そこで水分補給&水汲みをし、藪と岩の急斜面をロープを出しつつ登っていき、小さな岩尾根を乗越す。ム沢を見れば雪渓の上にも



雪渓で埋まった溪ははるか下

登れそうのない大滝があり、またその上にもかなり高い位置にブロックが引っかかっているのが見え、大高巻きして大正解だった。快適なテラスで一息入れて足元を見れば、ム沢にビッシリと雪渓が詰まっている！さて、ここからどう進むか。斎藤さんは目の前の急なヤブ尾根を下降してみるとおっしゃる。かなり急に見えるのだが、沢に降りられるから続いて来いとの指示。佐藤さんに続いてヤブ尾根までトラバースして下降し始めたが、急すぎる！自分の背負っているロープを出して懸垂する。ちょうどロープいっぱい15mの懸垂で斎藤さんの所に到達。ここから30mのダブルの懸垂で降りるとのこと。ロープが足りるか、雪渓との隙間は大丈夫だろうか、とても心配だったが、斎藤さんが見事に雪渓に降りた。続いてみれば、本当にロープいっぱい30m懸垂で、雪渓との隙間の無いポイントに下降できた。佐藤さんが、下見したんじゃないかってくらい凄い！と斎藤さんを絶賛。本当にココしかないという所に降りられるなんて神ってますよ！

雪渓の上に降りると晴れてきた。大高巻き中は晴れないでと祈っていたが、今ここで晴れてくるなんて素晴らしい。涼しくて快適な雪渓歩きは、降りる地点が心配であったが、全く危険の無い状態で、どうぞここをお通り下さいといった終わりをされていてまたまた素晴らしい。振り返れば佐藤さんはサングラスをしていて、なんて準備が良いのだろうと思う。

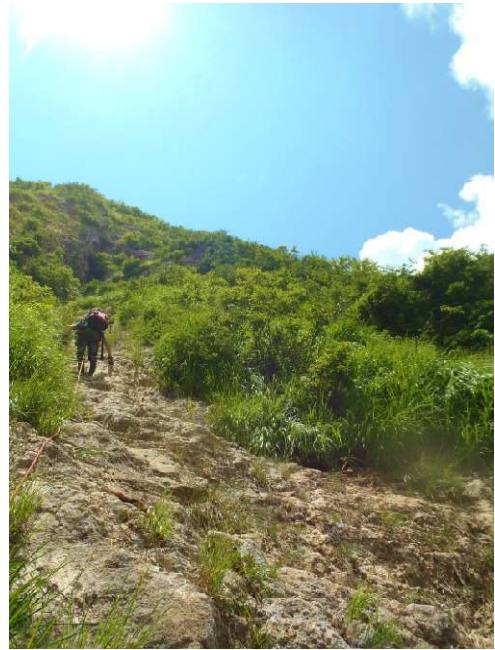
ここからは稜線も間近に見え、あと1時間くらいでお昼には山頂には行けるかななどと話す。電波も通じるので尚子さん



涼しく快適な雪渓歩き

にメッセージを送る。ネット上にはム沢の記録は2件しか見たらなかった(しかも9～10月のみ)が、いずれも最後の二俣は左でロープを出しつつスラブを登ったらしい。ここ右に行けば簡単に登山道に出られそうだが……。我々もここは左に入って、すぐ右方面を見て行けそうなら右へということにする。しかし、見た目より立っている岩&ヤブの斜面が続き、太陽に焼かれながらロープを出しまくりで登っていく。もう、何ピッチロープを伸ばしてもらったか分からなくなり、時間も分からないので何も考えず登っていく。休憩中にスマホを出してみれば、尚子さん達も稜線に着いたとのメッセージ。ただいま14時。じゃあ14時半過ぎなら山頂で会えるかも？と思う。しかしまだまだヤブ岩急斜面は続く……。そのうち雨が降ってきてシャワー替わりとなりとても気持ちが良い。登っているうちに雨も止み、眼下のム沢に虹が

かかる。虹を見下ろすなんて初めてだ。さすがにもう稜線はすぐそこでしょう？と思ったのでコールしてみるが反応なし。もう15時半になっていたのだ。時間感覚が無さすぎて自分にビックリ。尚子さん達だって下山があるから、そう長く待ってられるはずがない。念願の稜線に立つとすぐそこが本名御神楽の山頂だった。無事に登って来られて本当に良かった。お二人のお陰です。皆で握手を交わし、記念撮影をする。



ヤブ岩急斜面は長かった・・・

ここからは登山道モードに切り替え、歩き出す。全く整備されていない登山道の雨に濡れたヤブで全身びっちょり。雨乞峰からはオレンジ色の泥になんどもひっくり返し(私だけ)、かなり精神的ダメージを受ける。最後の1ピッチはヘッデンとなり、20時頃スィフトに到達したのでした。いやあ長かった・・・。

蟬平へ向かい、着替えてさっぱりする。集落まで移動して自販機の前でジュースを飲みながら清算などしてから解散。私は眠すぎて運転不能。なんとか新鶴Pまで辿り着いて仮眠し、明け方自宅に向かったのです(-_-;)。尚子さんにはご自宅に泊まってはどうかとお気遣いいただいたけれど、きっと大竹さん宅にも辿り着けなかったでしょう。お気遣いありがとうございます。それに山頂ではだいぶお待たせしてしまったのではないのでしょうか。ご心配おかけしてすみませんでした。

仮眠する時に、スイフトのフロントガラ

スにレシートが挟まっていることに気づいた。一日遅れでムサ沢に入ったAパーティーの置手紙？でした。室谷の登山口にあった車はムサ沢Pの車だったのですね（気づくの遅すぎ）。

ム沢はなかなか手強い沢でしたが、斎藤さんの素晴らしい判断と佐藤さんの登攀力に引っ張っていただき、なんとか登ることができました。かなりの修行となりましたがとても楽しく、充実した沢合宿となりました。ありがとうございました。もっと体重減らして体力と登攀力を身に付けたいものだと思います。



やっとたどり着いた御神楽岳！（逆光・・・）